

シモフリアイゴの養殖について

奥原 哲夫、長間 浩

シモフリアイゴの養殖用生簀（5 m × 5 m × 3 m）は佐良浜漁港内に浮かべてあるので、波浪については直接外海の影響を受けることはない。稚魚は生簀に収容後4日間餌止めした。その理由は素人判断になるかもしれないが、第一に輸送時のストレスによって体力を消耗しているアイゴに餌を与えた場合、斃死の引き金になりはしないかという心配、第二にこれから与えていく餌に早く慣れて欲しいという心使いがあったからです。取り越し苦労であったかもしれないが、一応この4日間で斃死した稚魚は確認できなかった。その後、1日当りの投餌回数は1～3回と不規則ながら、配合飼料を投与した。現在、順調に成長している感じがする。

この配合飼料は、沖縄食糧株式会社が魚類用（魚種は特定しない）に試験的に試作したものです。原料及び成分などについてはおしえてもらえなかった。これに凝固剤（アルギニン）を重量で4%混ぜており、それからアイゴに投与しているが、非常に喰い付きが良い。

しかし、天候の悪い時や急な用事ができた時は、1日ないし3日間投餌しない場合もある。

それから種苗の輸送状況及び成長過程並びに生簀内の水質については次の様に取りまとめてありますので参照して下さい。

なお、ここでは投餌率、餌料係数及び餌料転換効率等については念頭にないことを断っておきます。ただし、平成2年7月17日から平成3年2月5日までの月間成長率3.1cm、月間増量率14.8gと計算される。

* 伊良部町漁協組合員（シモフリアイゴを養殖している本人）

シモフリアイゴの種苗輸送

種苗生産機関	沖縄県水産試験場
種苗輸送年月日	平成2年7月17日（火）
種苗の大きさ（全長）	3～5cm
収用生簀の設置場所	佐良浜漁港
収用生簀数	1基
種苗の収用尾数	3,900尾
生簀収用後確認された死亡尾数	200尾
種苗の入手価格	1尾7円
種苗の輸送経路	水試（糸満市西崎町）－車/30分→那覇空港－飛行機/60分→下地島空港－ 一車/15分→佐良浜漁港

種苗の輸送方法 ビニール袋に海水を入れさらに小さなビニール袋に水をつけて海水温度の上昇を防ぎ1袋当たり150尾づつ収用して酸素をふきこんで封入しこれを2袋づつダンボール箱につめて車、飛行機を乗りついで輸送した。

収用時の生簀内水質 水温31.0

ビニール袋から生簀への種苗の移入方法

ダンボール箱を開けて種苗の入ったビニール袋を生簀内に5分間浮かべその後ビニール袋を開封して生簀に種苗を移動した。

収用時の宮古島の気象(平成2年7月17日(火))

ア 宮古島地方の気象

風向 南よりの風 天気 晴れ

風速 6~9メートル 最高気温31.7℃

最低気温27.3℃

イ 沖縄地方の気象

風向 南西の風 天気 晴れ所によりにわか雨

風速 6~9メートル 最高気温32.7℃ 最低気温27.7℃

表-1 佐良浜漁港内水質調査結果

項目 / 月日	平成2年10月15日	平成3年2月5日
COD (mg/l)	0.5	0.5
SS (mg/l)	5.0	3.2
COI i (個/100ml)	12	0
N-Hex (mg/l)	-	0
DO (mg/l)	5.5	6.0
比重 (δ15)	26.0	29.0
PH (ppm)	8.12	8.3
水温 (℃)	26.5	20.5
採水時刻	11時40分	10時50分

気象概況(10月15日)

天気 曇り 風向NE 風速7~10メートル

干潮 11時18分 満潮 5時1分

気象概況(平成3年2月5日)

天気 曇り 風向NE 風速7~10メートル

干潮 17時33分 満潮 10時57分

表-2 シモフリアイゴの測定結果

項目	平成2年10月15日	平成3年2月5日
全長 (cm)	10cm~16cm (平均13.3cm)	10cm~21.5cm (平均18.4cm)
体重 (g)	25g~70g (平均43.5g)	50g~150g (平均89.0g)

※ 測定尾数は各々10尾